

# 土佐和紙総合戦略におけるこれまでの取り組みの総括(案)

戦略全体の 目標値		実績				目標
						R5
		H30	R元	R2	R3	
全体	5億9千万円	5億8千万円	4億8千万円	4億5千万円	7億円	
うち機械すき	4億8千万円	4億7千万円	3億9千万円	3億7千万円	6億円	
うち手すき	1億1千万円	1億1千万円	9千万円	8千万円	1億円	

【委員からの評価(5段階)】  
 課題解決に向けて  
 ◎: 課題を解決  
 ○: 課題解決に前進が見られた  
 △: 課題解決にあまり進んでない

基本方針	取り組み内容	委員からの評価	課題分析	今後の方向性(案)
① 土佐和紙の原料確保	<b>◎情報共有の場の提供、生産体制の確立</b> <b>(1) 楮生産が可能な土地の情報収集、あっせんに向けた試験栽培の実施【R元～】</b> 楮生産が可能な土地のあっせんに向けて、県内3箇所試験栽培を実施。 3箇所のうち2箇所は生育不良及び獣害被害により廃止(R3.3月)することとなった。 残りの1箇所においては、試験栽培を継続中。R4年度に収穫後、分析のうえ、生育状態を検証する。 ⇒(成果)主に山の斜面で栽培されるこうぞについて、平地かつ栄養素の少ない土地でも栽培可能であることが確認できた(試験栽培の当初の目的を達成したことから、試験栽培はR4末で終了予定)。 ≪工業振興課、紙産業技術センター≫	<b>【総評】△: 課題解決に向けてあまり進んでいない</b> <b>【主なご意見】</b> ・生産者同士の課題や現状の共有ができたことは一定評価できるが、課題解決に向けた議論までには至っておらず、前進しているとは評価し難い。 ・試験栽培についても、獣害被害等により、十分な結果が得られていないことから、こうぞ生産が可能な土地の情報収集及びあっせんまでに至っていない。	<b>【現況】</b> ・こうぞ等の生産は、農家の冬季における現金収入として副業的に行われており、かつては高知県が全国トップの生産量(昭和40年台頃)。 ・こうぞ等の生産には非常に手間がかかる(栽培は比較的簡単だが、収穫後の生産工程が労働集約的)。一方で、こうぞ等の取引価格(農家の収入)が労働の対価に見合っていない。 ・また、安価な海外産が輸入されており(主な生産国は、タイ、中国、パラグアイ等)、高知県産の取引価格の抑制につながっている。 ・生産農家は、長期的には高齢化等にもない減少傾向。 ・こうぞは獣に好んで食されることが知られており、食害が生産量の減少に拍車をかけている。 ↓ ・近年のウッドショックの例のように、海外産のこうぞ等を将来にわたって安定的・安価に入手し続けられる保証はないこと、質の高い県内産こうぞを使用することが差別化(高付加価値化・高価格化)の要因となりうる等から、土佐和紙の発展のためには将来にわたる県内産原材料の確保は必要不可欠であると思料。 ・県内におけるこうぞ等の生産を将来にわたって持続可能なものとするためには、こうぞ等の生産による収入が労働に見合うものとなる必要がある。 ・ただし、取引価格については生産者・卸・購入者それぞれの利益相反があり、即座に向上させることは非常に困難。 ・そのため、まずは非常に手間のかかる生産工程(特に、刈り取り後の蒸しや「へぐり」といった作業)の軽減が必要。 ・これと平行して、困難度の高い収入改善の方策検討を長期的に進める。	<b>①生産(加工)技術の改良</b> ・へぐりなどの作業の効率化をはかる用具や手法の開発・普及を行う(現在の手作業における効率化の検討に加え、一部工程の機械化ができないか検討)。 ・より生産・加工のしやすい品種(系統)の選抜や、既存の栽培に係る情報を栽培方法のマニュアル化を進める。 <b>②作業工程の分業化等の検討</b> ・作業の一部を分業化・協働化することによる作業効率向上を図る(農福連携や、他県で実例のある事務所との連携など)。 <b>③原材料生産者の収入を改善する方策の検討</b> ・原料の廃棄部位(黒皮、かじガラ)の二次利用方法等の検討を行う(燃料材としての売却など)。 <b>④原材料の新たな生産者の確保</b> ・こうぞワークショップにおいて、苗木の生産供給、蒸し器などの設備・道具等の確保について、関係者間で協議を行う。 ・既存のこうぞ生産ほ場をリスト化し、離農するほ場を新たな生産希望者や、原料を必要とする紙業者に斡旋する取組を促進する。 ・その取組の一環として、市町村が令和6年度までに策定する「地域計画」(人・農地プラン)に、農地の受け手としてこうぞ生産者を位置づけるよう提案する。
	<b>(2) こうぞ生産者と和紙生産者との意見交換会の開催【R3】</b> 原料生産における課題の共有や課題解決に向けた今後の取り組みを考えるきっかけづくりを狙いとした意見交換会を開催。(9/24) ◆こうぞ生産者及び和紙生産者8名、関係団体及び関係機関15名、事務局5名が参加。 ⇒(成果)原料生産の現状及び課題について共有することができ、ワークショップ開催に繋ぐことができた。 ≪工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、いの町、土佐市、環境農業推進課、仁淀川地域本部、紙産業技術センター≫			
	<b>(3) こうぞについてのワークショップの開催【R3～】</b> (2)の意見交換会にて情報共有した課題の解決に向けた新たな取組を実施するため、ワークショップを開催。(R4.1.13) ◆第1回は、こうぞ生産者及び和紙生産者6名、関係団体9名、事務局4名が参加。 ⇒(成果)こうぞ生産の課題解決に向けた取り組みについて、アイデア出しを行うことができた。 ※開催予定だったR3年度第2回は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催延期。 ≪工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、いの町、土佐市、環境農業推進課、仁淀川地域本部、紙産業技術センター≫			

【参考】県内でのこうぞ生産状況

※H27は環境農業推進課において詳細データが所存不明のため、合計のみを記入  
 ※いの町の調査はH29までJAIに出荷している人のみが対象。H30からは全生産農家を対象に聞き取った結果。

	栽培面積 [ha]									生産量(黒皮換算計) [t]									栽培農家数 [件]								
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2		H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	
土佐市	-	-	-	-	0.56	0.57	0.57	0.57		2.25	-	-	1.67	1.82	1.66	1.39	1.52		1	-	-	1	1	4	4	4	
本山村	-	2.50	-	-	2.50	2.50	1.50	1.40		-	2.30	-	-	2.87	2.89	1.87	1.41		-	16	-	-	16	12	12	9	
大豊町	0.30	-	-	-	-	-	0.03	-		0.27	-	-	0.06	0.04	0.04	0.04	-		4	-	-	1	1	1	1	-	
土佐町	-	-	-	-	-	-	-	-		0.70	0.28	-	-	-	-	-	-		6	3	-	-	-	-	-	-	
いの町	1.50	1.50	詳細不明	3.10	1.09	3.91	3.44	3.38		4.16	4.16	-	3.24	1.81	4.43	4.43	3.03		25	25	-	20	12	27	29	27	
仁淀川町	1.20	0.90	-	0.80	1.00	1.00	1.00	1.00		1.59	0.59	-	0.41	0.54	0.72	0.66	0.59		7	2	-	1	1	1	1	1	
梶原町	0.02	0.02	-	0.02	0.02	0.12	0.12	0.12		0.06	0.06	-	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06		1	1	-	1	1	1	1	1	
津野町	0.30	0.10	-	0.30	0.90	0.83	0.76	0.76		0.00	0.50	-	-	0.90	0.85	0.78	0.67		4	5	-	4	6	6	6	6	
黒潮町	0.60	0.60	-	0.40	0.40	0.04	0.04	0.04		0.50	0.21	-	0.21	0.26	0.26	0.22	0.22		1	1	-	1	1	1	1	1	
計	3.92	5.62	5.4	4.62	6.47	8.97	7.46	7.27		9.54	8.11	7.5	5.66	8.32	10.90	9.44	7.51		49	53	38	29	39	53	55	49	

【参考】全国のこうぞ生産量等の推移

(公財) 日本特産農産物協会調べ (調査に協力を得られた都聞き取りをもとに作成)

	H27	H28	H29	H30	R元
経営体数	274	239	216	236	233
栽培面積	21ha	37ha	16ha	26ha	27ha
生産量	33t	30t	34t	38t	36t

主産地 茨城県、高知県、新潟県

# 土佐和紙総合戦略におけるこれまでの取り組みの総括(案)

基本方針	取り組み内容	委員からの評価	課題分析	今後の方向性(案)
② 用具の確保と土佐和紙生産者の後継者育成	<p>◎用具不足への対応、人材育成、用具技術の数値化</p> <p>(1)用具寸法の数値化【H30】 いの町に寄贈された桁の金具の高さや寸法について、工業技術センターにて計測。今後、用具制作研修生へフィードバックする等活用方法について検討していく。 ⇒(成果)用具(一部)の数値化が可能であることを確認するとともに、寸法計測方法(三次元測定)を確立した。【H30】 《工業振興課》</p> <p>(2)いの町所有の簀桁の修繕及び貸し出し体制の構築【R元～】 いの町に寄贈されている簀桁の修繕を実施。R2年度には、いの町にて貸し出しの規約を制定。町内在住の手すき和紙職人を目指して後継者育成制度の研修を受けている者や手すき和紙の技術の伝承にたずさわる者等を対象に貸し出しを開始。 ⇒(成果)用具貸し出し実績 R2:1件 《いの町、仁淀川地域本部》</p> <p>(3)用具製作技術者の育成【H30～】 全国手漉和紙用具製作技術保存会において全国の用具製作技術者育成に向けた研修を実施(文化庁補助事業を活用)。 ◆研修者数:H30 4(2)名、R元 7(1)名、R2 7(1)名、R3 4(0)名、R4 7(1)名 ※( )内は高知県在住の研修者数 ◆研修会開催回数:H30 5回、R元 5回、R2 3回、R3 5回 ⇒(成果)用具製作技術者研修修了者数 H30～R3:6名(簀3名、竹片子2名、桁1名) ※うち高知県関係者は竹片子の研修修了者に1名 《歴史文化財課》</p>	<p>【総評】△:課題解決に向けてあまり進んでいない</p> <p>【主なご意見】 ・用具の貸し出し規定の制定により、用具不足への対応策を講じることができた。一方、貸し出し用簀桁の規格は、現在の職人が使用する簀桁のニーズに合っていない等の理由で実績が少なく、今後、改善策を検討する必要がある。</p> <p>・用具製作技術者の育成については、安定した研修生の育成が行われており一定評価できるが、職人の用具不足の実情は変わっていないため、用具の貸し出し規定を含めた対応策を検討する必要がある。</p> <p>・用具寸法の数値化については、数値化までは行ったものの、活用には至らず、課題解決には繋がっていない。</p>	<p>【現況】 ・用具製作技術者の育成については、全国レベルで継続的に行われている。一方、研修修了後に用具製作の受注に繋がっていないなど、用具不足の実情は変わっていない。 また、手すき和紙職人の高齢化や後継者不足に伴い、用具の需要も衰退していることから、高水準かつ多様な技術を伝承することが難しい上に、生業として従事することが難しい。 ↓ ・用具製作の技術は、手漉き和紙職人ごとの体格や漉く紙の版型などにより求められる特性が異なることから、習得に期間を要する。研修修了後もさらなる研鑽が必要だが、発注がなければ経験を積めず、技術が上がらなければ発注がないという、悪循環となっているものと思料。</p> <p>・手すき和紙職人においては、昔ながらの手づくりの用具に対する思い入れが強いものと想定されるが、用具職人の不足状況が今後劇的に改善されることは見込めないため、従来の研修等と同時進行で、用具製作技術の見える化など、紙漉きの技術の解析を行い、用具製作技術者の熟度向上に結びつけるなど、多様な対策を検討することが必要。</p>	<p>①用具の受発注状況の分析 ・県内の職人及び県内外の用具製作技術者、関係機関(用具保存会・文化庁等)への聞き取り等により、現状分析と可能な対策検討を行う。</p> <p>②用具製作技術の見える化 ・現在使用されている用具の規格特性をデータ化(できるだけサイズの異なる複数の用具をデータ化)することにより、使用感の良いニーズとマッチする道具の条件の見える化を進める。</p> <p>③当面の用具調達支援 ・研修修了生が製作した用具の貸し出し体制を整備できないか検討を行う。 ・いの町が実施している用具貸し出しにおいて、より利用されやすいサイズの簀桁の調達と貸し出しができないか働きかけ。</p>
	<p>◎手すき和紙の人材育成</p> <p>(4)手すき和紙職人の後継者掘り起こしの実施【R元～】 ・後継者掘り起こしに向けて、「高知求人ネット」での後継者育成情報を発信。 ◆求人ネット問い合わせ件数:H30 8件、R元 15件 ※多くの問い合わせをいただいたが、研修の受け入れ体制が整っておらず、掲載中止。 ◆その他相談件数:H30 1件、R元 7件、R2 2件、R3 2件</p> <p>・移住希望者対象イベント「高知暮らしフェア」に出展。伝統産業に興味のある方へPRを行った。 ◆出展実績:R元 大阪1回(相談者数3名)高知1回(相談者数0名) R3 東京1回(相談者数3名)</p> <p>・ものづくり総合技術展の伝統産業ブースにて、後継者育成事業の研修生の紹介や作品の展示をし、PRを実施。(R元、R3) 《工業振興課》</p> <p>(5)手すき和紙職人の後継者育成【H30～】 高知県伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業費補助金を活用し、2年間の長期研修により後継者の育成及び支援を実施。 ⇒(成果)長期研修修了者数 R元～R2:2名 ※R4年度は、新たなメニューを追加し、長期研修修了生を中心とした販路開拓に向けた市場調査に係る経費を補助。研修修了後の販路開拓も推進。 《工業振興課、手すき和紙協同組合、いの町、土佐市》</p>	<p>【総評】△:課題解決に向けてあまり進んでいない</p> <p>【主なご意見】 ・戦略策定以降、2名の研修生が研修修了し、手すき和紙職人となったが、2名とも親族による受け入れ＝親族外での受け入れ体制が整っていないことから、現状に合わせた受け入れ体制の整備等を検討する必要がある。</p> <p>・また、後継者の掘り起こしについては、受け入れ体制が整っていないことから、十分な掘り起こしが行えていないため、今後は受け入れ体制の整備に合わせて、積極的な掘り起こしを行う必要がある。</p>	<p>【現況】 ・手漉き和紙の後継者確保については、従来より親族内世襲がほとんど。 ・新たな後継者の掘り起こしを目指して求人ネットでの募集したところ、多くの問い合わせがあった。しかしながら、研修の受け入れ体制が整わなかったことから実際の研修等へ繋げることができず、求人ネットへの掲載も中止した。 ・受け入れ体制が整わなかった要因は、一人の職人が研修生を受け入れる体制だと受け入れた職人にとって負担が大きく、本来の業務に支障を来す恐れがあること、また、研修終了後の生計維持への不安が大きいこと等と推測される。 ↓ ・手漉き和紙職人になりたいというニーズはあるが、それを受け止める体制がないことが進まない要因。</p> <p>・個々の職人にとっては、研修生を受け入れるメリットが乏しい(むしろ生産量が落ちる等のデメリットがある)ため、個々の職人の意向に頼った研修生受け入れは発展可能性が低い。</p> <p>・そのため、こうした状況を根本的に改善するためには、土佐打刃物における鍛冶屋創生塾のように、土佐和紙業界全体として後継者を育成する仕組みづくりが必要。</p>	<p>①研修の受け入れ体制の構築 ・これまでの1対1の徒弟制を前提とした研修制度ではない、複数対複数の研修制度の構築を目指す(鍛冶屋創生塾や他県の研修事例を参考に研修制度モデルを作成し、実施主体を探し具体化を行う)。 ・従来型の研修においても、受け入れた職人の負担軽減策を検討し、後継者育成対策事業費補助金の拡充を図る。 ※受け入れにあたっては、県の移住施策や地域おこし協力隊制度の活用も検討</p> <p>②研修終了後の就業支援の検討 ・手漉き和紙職人として新たに就業するために必要となる設備等を行う(インシャルコストへの支援または余剰の設備等の把握・調達など)。 ※必要な設備:土地、建物、煮熱釜・桶、ちり取りスクリーン、打解機、ホーレンダー・ピーダー、紙床台、圧搾機、刷毛、乾燥機 など</p> <p>③既存の職人を含めたビジネス研修 ・生産者としてだけでなく、営業担当者や経営者としてのスキルの向上を図るための研修の実施(まずは土佐MBAなど既存の研修の活用)</p>

[参考]

①全国の用具製作職人数(R4.8現在)  
簀:8名、桁:2名、片子:4名、金具1名 ※うち高知県内には簀:1名、片子:1名

②県内の手すき和紙職人数(組合員数)  
H29:20名、H30:18名、R元:18名、R2:16名、R3:16名、R4:16名  
※最盛期の1953年(昭和28年)は714戸

# 土佐和紙総合戦略におけるこれまでの取り組みの総括(案)

基本方針	取り組み内容	委員からの評価	課題分析	今後の方向性(案)																														
③ 土佐和紙のPR・販売促進・新商品開発	<p>◎「土佐和紙」のブランド力の強化</p> <p>(1) 土佐和紙製品PRパンフレットの作成【R元】 手すき和紙協同組合の組合員のうちパンフレットに掲載を希望する12事業者を取材し、パンフレットを作成。 ◆作成部数:200部 ⇒(成果)生産者の情報だけでなく、紙のサンプルを貼り付けることで、より鮮明に土佐和紙の魅力を発信。 《工業振興課》</p> <p>(2) 土佐楮にこだわった認証制度の創設【R元～】 土佐和紙ブランド力の向上を目的に、土佐こうぞを使用した土佐和紙を「土佐こうぞ和紙」として認定する制度の創設を検討。具体的な検討を引き続き、ブランドとしての価値創造の方向性について検討していく(ブランド認証については、一度見直すこととし、関係者間で、価値創造の方向性を決定したうえ、必要に応じた取り組みを行っていく。) 《工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、紙産業技術センター》</p>	<p>【総評】△:課題解決に向けてあまり進んでいない</p> <p>【主なご意見】 ・土佐和紙パンフレット作成は、手すき和紙職人及び和紙を「見せる化」することで、土佐和紙の魅力発信に繋がったが、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止等に伴い、十分な魅力発信が出来ていない。 ・「土佐楮和紙」の認証制度創設については、運用の難しさもあるが、ブランドとしての価値創造の方向性を検討する段階で止まっており、ブランド力の強化には至っていない。</p>	<p>【現況】 ・土佐和紙のうち、手漉き和紙は1953年(昭和28年)の生産量2,305トン、生産額10億4,000万円をピークに、以降一貫して減少(紙及び製紙原料生産統計から)。 ・機械漉き和紙は、1953年(昭和28年)から、当時は不可能と言われていた障子紙が、1958年(昭和33年)には機械漉きの典具帖紙が生産されるなど、戦後から1973年(昭和48年)頃まで右肩上がりで増加。 ・和紙は、かつては日常生活の中で様々な用途に用いられていたが、生活様式の変化にともない需要が大きく減少(紙業界全体では、機械化や機能紙の開発など変化に対応)。 ・手漉き和紙の各事業者あたりの従事人数が少ないため(工業統計によると4人以上の従事者がいるのは1事業者のみ)、紙をすくという製造工程以外の、新商品開発や販売促進、顧客管理等が行えなくなっているものと思料。 ↓ ・消費者が使う最終製品として販売される土佐打刃物と異なり、和紙は素材であり、芸術用途などを除き、そのままではB to Cの商品になりにくい。 ・また、生活様式が変化してしまった現在、従来と同じ用途での発展は限界があるため、新しい顧客に対する新しい商品の開発が必要。</p>	<p>①B to B及びB to Cの新商品開発 ・既存の顧客を対象とした商品の磨き上げ(卸・小売り又は消費者との情報交換の場の調整など)に加え、新たな顧客の開拓(ポストコロナ期のインパウンド需要や生活様式の変化に応じた新商品開発など) ・B to Cにおいては近年発展してきたフリーマーケットアプリの活用などによる全国の消費者をターゲットとした販促活動の実施(すてにれんけい高知の活動として一部着手)</p> <p>②販売促進体制の構築 ・販促活動を活性化するための根本的な対策の検討(販促スタッフの雇用または複数事業者で販促業務等を共有(協業化・組織化)など) ・これまでの販路開拓支援(国内外で実施される見本市や商談会への出展支援)は継続</p> <p>③土佐和紙PRの強化 ・土佐和紙に関する活動情報の収集・集約・発信の強化 ・R4年12月に完成予定の伝統的工芸品等のデジタルパンフレットなど新たなツールを活用したPR活動の強化 ・現在の生活における「和紙の新たな使い方」の提案</p>																														
	<p>◎土佐和紙PR</p> <p>(3) 高知家プロモーション等でのPR実施【H30～】 地産地商外商公社発信のニュースレターやSNSを通じた情報発信を実施。 ◆①ニュースレターによる情報発信回数 R元:2回 ②SNSによる情報発信件数 R元～:28回 《工業振興課》</p> <p>(4) イベント等でのPR【R元～】 ・首都圏での「土佐和紙展」の開催や、台湾ギフトショー及び東京オリンピック・パラリンピック関連イベント等への出展によるPRを実施。 ◆出展実績 R元:3回、R2:0回、R3:1回 R元:ギフトショナリー台北2019出展(4/18～21)、伊東屋「KOCHI STYLE」出展(9/11～17)、土佐和紙展開催(12/23～25) R3:東京オリンピック・パラリンピック関連イベント「Tokyo Tokyo ALL JAPAN COLLECTION」出展(7/18～21) ・その他、ホテルオークラ東京や県内施設にて展示を行うとともに、いの町ではKami祭を開催する等、幅広い層へのPRを行った。 ◆展示実績 R元:2回、R2:3回、R3:2回、R4:2回 R元:ホテルオークラ東京(R元.9～現在も展示中)、高知龍馬空港(R元.7～10) R2:ホテルオークラ東京、オーテピア高知図書館(R2.10～12)、高知龍馬空港(R2.10～11) R3:ホテルオークラ東京、オーテピア高知図書館(R3.12) R4:ホテルオークラ東京、オーテピア高知図書館(R4.4～5) ◆イベント実績(H30～R3) Kami祭(毎年11月23日)、夜の紙博(H30:11/23～25、R元:11/23、R2:11/21～23、R3:11/20、21、23) ⇒(成果)夜の紙博(入館者 H30:774人、R元:148人、R2:1081人、R3:1194人) 《工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、小津和紙、いの町、仁淀川地域本部》</p>	<p>【総評】○:課題解決に向けて前進が見られた</p> <p>【主なご意見】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントの中止等があり、十分なPRが行えなかった期間もあるが、県内外施設での展示等も継続して行い、一定のPRには繋がったと考える。 一方で、土佐和紙の販売額は減少していることから、更なるPRに繋がるよう、新たな情報発信ツール及びPR方法等を検討する必要がある。</p>	<p>【参考】手漉き和紙出荷額(億円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国計</td> <td>20.9</td> <td>21.4</td> <td>21.7</td> <td>21.3</td> </tr> <tr> <td>1位</td> <td>福井県 3.9</td> <td>福井県 4.1</td> <td>福井県 4.0</td> <td>愛媛県 4.0</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>兵庫県 3.8</td> <td>兵庫県 3.8</td> <td>愛媛県 3.7</td> <td>福井県 3.9</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>愛媛県 3.5</td> <td>愛媛県 3.7</td> <td>兵庫県 3.6</td> <td>兵庫県 3.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高知県 X</td> <td>高知県 0.9</td> <td>高知県 X</td> <td>高知県 X</td> </tr> </tbody> </table>		H24	H25	H26	H27	全国計	20.9	21.4	21.7	21.3	1位	福井県 3.9	福井県 4.1	福井県 4.0	愛媛県 4.0	2位	兵庫県 3.8	兵庫県 3.8	愛媛県 3.7	福井県 3.9	3位	愛媛県 3.5	愛媛県 3.7	兵庫県 3.6	兵庫県 3.5		高知県 X	高知県 0.9	高知県 X	高知県 X	
		H24	H25	H26	H27																													
	全国計	20.9	21.4	21.7	21.3																													
	1位	福井県 3.9	福井県 4.1	福井県 4.0	愛媛県 4.0																													
	2位	兵庫県 3.8	兵庫県 3.8	愛媛県 3.7	福井県 3.9																													
	3位	愛媛県 3.5	愛媛県 3.7	兵庫県 3.6	兵庫県 3.5																													
	高知県 X	高知県 0.9	高知県 X	高知県 X																														
<p>◎販売促進</p> <p>(5) 販路開拓【H30～】 ・国内外で実施される見本市や商談会への出展を支援【H30～】 ◆出展回数 H30:6回、R元:9回、R2:6回、R3:7回 ・ものづくり総合技術展への出展及び県外バイヤーの招聘により商談機会を提供。【R3】 ◆商談件数 R3:5件(手すき和紙協同組合) ・伝統的工芸品産業等後継者育成対策事業費補助金に新たな事業を追加。 長期研修修了生を中心とした販路開拓に向けた市場調査に係る経費を補助【R4～】 《工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、産業振興センター》</p> <p>(6) 販売促進【H30～】 ・高知城歴史博物館や歴史民俗資料館、いの町紙の博物館、土佐和紙工芸村等で土佐和紙製品の販売を実施。【H30～】 ・いの町紙の博物館販売コーナーをリニューアル。集客力及び売上向上を目指す。【R4.9月～】 ・県庁地下生協前で月1回程度、土佐和紙製品の販売を実施。【R3.7月～】 ◆出店実績 R3:9回、R4:4回(R4.8月末現在) ・伝統的工芸品及び特産品のデジタルパンフレットの製作を開始。【R4.12月完成予定】 《工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、いの町、仁淀川地域本部》</p>	<p>【総評】○:課題解決に向けて前進が見られた</p> <p>【主なご意見】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止等はあったものの、国内の見本市や商談会、ものづくり総合技術展への出展等、継続して販路開拓に取り組むことができた。 ・販売促進においても、県内施設等での販売を継続して行うとともに、販売場所のリニューアルなど売上げ向上に向けた取り組みを行うことができ、一定評価できる。 ・一方で、土佐和紙の販売額は減少していることから、見本市や商談会等への出展を呼びかけるとともに、新たな商談機会の創出や販売場所の確保等を検討する必要がある。</p>																																	
<p>◎新商品開発</p> <p>(7) 新商品開発への支援実施【H30～】 紙産業技術センターの設備を活用し、新商品開発のための技術支援を実施。また、土佐和紙に関する研究を行い、研究結果を新商品開発の際に活用していく。 ◆技術支援実績 H30:5回、R元:5回、R2:14回、R3:12回 ⇒(成果)商品開発件数(H30～R3):4件 《紙産業技術センター》</p>	<p>【総評】○:課題解決に向けて前進が見られた</p> <p>【主なご意見】 ・新商品開発における技術支援件数及び商品開発件数ともに実績を積んでいることから、一定評価できる。一方で、土佐和紙の販売額は減少していることから、消費者ニーズに応じた商品の積極的な開発等を検討していくとともに、開発された商品については、しっかりと情報発信をしたうえ、販売促進に繋げていく必要がある。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全国計</td> <td>17.8</td> <td>15.5</td> <td>15.5</td> <td>15.6</td> </tr> <tr> <td>1位</td> <td>福井県 3.8</td> <td>福井県 3.7</td> <td>愛媛県 3.4</td> <td>愛媛県 3.5</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>愛媛県 3.6</td> <td>愛媛県 3.6</td> <td>福井県 3.3</td> <td>京都府 2.6</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>兵庫県 2.9</td> <td>兵庫県 2.5</td> <td>京都府 2.3</td> <td>福井県 2.1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>高知県 X</td> <td>高知県 X</td> <td>高知県 X</td> <td>高知県 X</td> </tr> </tbody> </table> <p>※工業統計より(調査対象:従業員4人以上の事業者)</p>		H28	H29	H30	R元	全国計	17.8	15.5	15.5	15.6	1位	福井県 3.8	福井県 3.7	愛媛県 3.4	愛媛県 3.5	2位	愛媛県 3.6	愛媛県 3.6	福井県 3.3	京都府 2.6	3位	兵庫県 2.9	兵庫県 2.5	京都府 2.3	福井県 2.1		高知県 X	高知県 X	高知県 X	高知県 X		
	H28	H29	H30	R元																														
全国計	17.8	15.5	15.5	15.6																														
1位	福井県 3.8	福井県 3.7	愛媛県 3.4	愛媛県 3.5																														
2位	愛媛県 3.6	愛媛県 3.6	福井県 3.3	京都府 2.6																														
3位	兵庫県 2.9	兵庫県 2.5	京都府 2.3	福井県 2.1																														
	高知県 X	高知県 X	高知県 X	高知県 X																														

# 土佐和紙総合戦略におけるこれまでの取り組みの総括(案)

基本方針	取り組み内容	委員からの評価	課題分析	今後の方向性(案)
④ 土佐和紙文化の発信と無形文化遺産登録	<p><b>◎土佐和紙文化の啓発</b></p> <p><b>(1) 県立施設等での活用や企画展の実施【R元～】</b>            高知城歴史博物館の施設内での和紙の活用や高知城歴史博物館やオーテピアみらい科学館での企画展開催、さらには歴史民俗資料館等でワークショップを開催し、PRを行った。            ◆企画展開催実績 R元:高知みらい科学館                R3:オーテピア高知図書館(工業振興課との連携展示)            ◆ワークショップ開催実績 R元:15回(歴史民俗資料館、高知みらい科学館、高知龍馬空港、高知城歴史博物館)(県立施設等)                ※うち2回は新型コロナウイルス感染症の影響により中止                R3:2回(海洋堂スペースファクトリー南国)                ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止                R4:1回(R4.8月末時点)(海洋堂スペースファクトリー南国)            ⇒(成果)参加者数 R元:合計735名、R4:合計74名            ◆ワークショップ開催実績 毎月1回            (いの町紙の博物館)            ⇒(成果)参加者数 H30:合計132名、R元:合計152名、R2:合計112名、R3:合計134名、R4:56名(R4.8月末時点)</p> <p style="text-align: right;">≪工業振興課、土佐市、いの町≫</p> <p><b>(2) 教育現場での啓発活動の実施【H30～】</b>            いの町紙の博物館での課外学習を実施するとともに、和紙の生産量など県の調査データ等を小学校の副読本等に掲載し、啓発活動を行った。            ⇒(成果)掲載件数:3件(高知市、土佐市、いの町教育委員会発行)</p> <p style="text-align: right;">≪工業振興課、土佐市、いの町≫</p> <p><b>(3) 観光分野での活用による啓発【R3～】</b>            JR四国運営の県内を走る観光列車において、記念乗車票に土佐和紙を活用。さらには、照明器具の一部にも土佐和紙を活用し、啓発を行った。</p> <p style="text-align: right;">≪いの町≫</p> <p><b>(4) 紙とあそぼう作品展の開催【H30～】</b>            高知県下の児童・生徒から「紙」を使って製作した作品を募集・展示する「紙とあそぼう作品展」を開催し、紙の博物館や土佐和紙のPRを行った。            ◆応募者数:R元:46団体(個人含む)112点、R3:43団体(個人含む)131点            ※R2は、新型コロナウイルス感染症の影響により、未開催            ⇒(成果)会期中の入場者数 R元:2,089名、R3:2,245名</p> <p style="text-align: right;">≪工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、いの町、紙産業技術センター≫</p> <p><b>(5) 国際版画トリエンナーレ展の開催【H30～】</b>            国際的に評価が高い版画展である「国際版画トリエンナーレ展」を3年に1回開催。国内外向けに土佐和紙や版画文化の知名度向上を図った。            ◆応募作品数:R2 1,019作品(国内588作品、国外431作品)            ⇒(成果)会期中の入場者数 R2:6,760名</p> <p style="text-align: right;">≪工業振興課、手すき和紙協同組合、製紙工業会、土佐市、いの町、紙産業技術センター≫</p>	<p><b>【総評】○:課題解決に向けて前進が見られた</b></p> <p><b>【主なご意見】</b>            ・新型コロナウイルス感染症の影響により、実施困難な期間はあったが、企画展やワークショップ等を通じて土佐和紙文化の啓発を行うことができた。            ・また、教育現場での啓発活動については、一部の市町村において副読本の掲載による啓発などが行われている。            ・ただし、いずれの取り組みも県内全体への幅広い啓発活動には至っておらず、取り組みの強化・改善等の必要がある。</p>	<p><b>【現況】</b>            ・継続的な取り組みを行っている一方、啓発活動の中身や範囲が限定的であり、全県的な活動まで至っていない。            ↓            ・取り組みによって目指す「土佐和紙文化」は明確な形があるわけではない。土佐和紙の(販売促進を直接的に伴わない)PRによる認知度向上と仮定すれば、土佐和紙にふれる機会や、土佐和紙の話題に接する頻度が増えるほど認知度は向上する。そのため、従来から行われている土佐和紙を含む紙を使ったイベント(トリエンナーレ展や紙と遊ぼう展)開催や、物理的距離にとられないウェブを使った広報などを強化していくことが必要。</p>	<p><b>①土佐和紙の認知度向上</b>            ・企画展やワークショップ等の取り組みを継続するとともに、新たな活動範囲を拡げるため、他部署・他機関が開催するイベント等での実施を検討していく。            ・牧野富太郎博士の連続テレビ小説の放送や、特に大阪万博のような世界的規模のイベントの活用についても検討を行う。            ・手漉きの体験観光化(現在も土佐和紙工芸村で実施)</p> <p><b>②県内児童生徒への土佐和紙に触れる機会の創出</b>            ・いの町、土佐市などの一部学校で行われている和紙の卒業証書を児童生徒が自作する活動を県内小中学校へ拡大するよう働きかけ</p>
	<p><b>◎ユネスコ無形文化遺産への登録</b></p> <p><b>(6) ユネスコ無形文化遺産への登録に向けた土佐和紙保存会の活動支援及び技術保持団体の設立【R元～】</b>            美濃和紙保存会から講師を招聘し、研修会の開催等を行い、土佐和紙保存会の活動の活性化に取り組んだ(R元)。技術保持団体設立に向けて、土佐和紙保存会と協議のもと方向性等の検討を進めた。</p> <p>※土佐和紙保存会活動実績            R元:土佐和紙保存会研修会実施(美濃手すき和紙協同組合、本美濃紙保存会の方を講師として招く)(1/30)            R3:12月に第1回会合開催(12/3)            R4:5月に第1回(5/25)、6月に第2回(6/3)会合開催            土曜夜市(7/23)に出店。手すき和紙体験、小物販売などを行った。</p> <p style="text-align: right;">≪歴史文化財課、手すき和紙協同組合≫</p>	<p><b>【総評】△:課題解決に向けてあまり進んでいない</b></p> <p><b>【主なご意見】</b>            ・土佐和紙保存会において、ユネスコ登録に向けた意識の統一に時間を要していることや、新型コロナウイルス感染症の影響により取り組みが行えなかった期間もあり、課題解決に向けて前進しているとは評価し難い。            ただし、R4年度には改めて土佐和紙保存会としての活動方針を決定し、取り組みを開始することから、今後の活動に期待はできる。</p>	<p><b>【ユネスコ無形文化遺産登録の現況】</b>            ・ユネスコ無形文化遺産登録については、土佐和紙保存会の中で紙の選定含め、方向性が定まっておらず、実行に移せていない。            ↓            ・本取り組みに近道はなく、ユネスコ無形文化遺産登録に登録されている3種の和紙における文化財としての和紙製作のメリット・デメリットをあらためて整理し明示する必要がある。            ・その上で、粘り強く関係者に対し、指定紙の技術伝承を進めるための働きかけを続けていくことがスタートとなる。</p>	<p><b>①土佐和紙保存会の活動支援</b>            ・土佐和紙保存会としての活動を確かなものとするために、①他県の技術保持団体などの情報交換の場づくり、②指定紙など伝統的な和紙の歴史や技術について学習する場を設けるなどの支援を行う。            ・文化庁と現状の情報共有を図るとともに、技術伝承のあり方などに対し、助言を求める。</p>

[参考]

- ①高知県の無形文化財に指定されている和紙  
 1 薄様雁皮紙、2 土佐典具帖紙、3 狩山障子紙、4 土佐清帳紙、5 須崎半紙  
 ※現在、技術が継承されているのは、「土佐典具帖紙」「土佐清帳紙」のみ
- ②ユネスコ無形文化遺産に登録されている和紙  
 石州半紙(島根県)、本美濃紙(岐阜県)、細川紙(埼玉県)